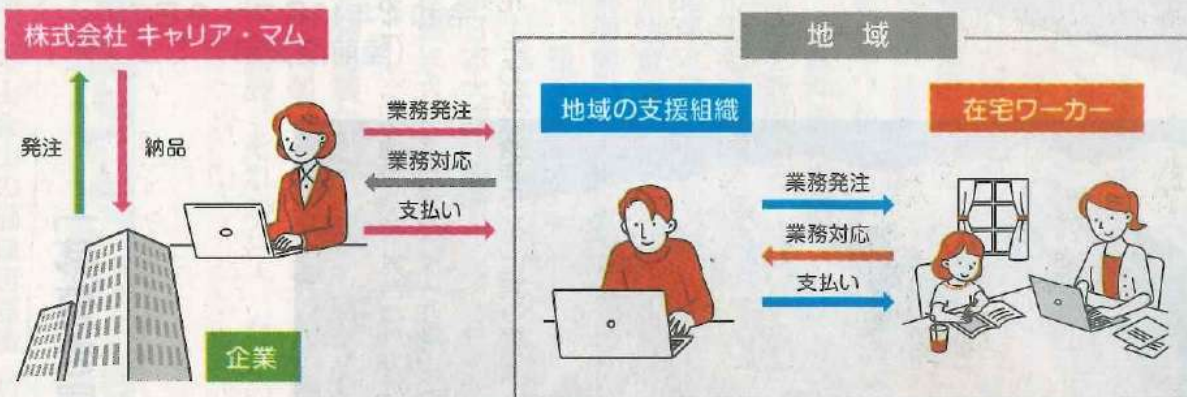


サポート付き在宅ワーク確立へ

■実証実験のイメージ



東京の一般社団法人が12月まで実施

陸前高田など全国5地域で実験

一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク（東京都、町野弘明代表理事）は、陸前高田市を含む全国5地域で、サポートを受けながら在宅ワークに取り組める「ユニバーサル・クラウドソーシング・サービス」事業の実証実験を行っている。地域の支援組織が業務発注者と在宅ワーカーの間に入り、取り組みやすいようにする仕組み。障害者や勤労意欲があるにもかかわらず、育児、介護で時間が限られている人などの受け皿となり、誰もが住み慣れた地域で仕事ができる環境の構築を目指す。（高橋 信）

働きたい人の受け皿に

クラウドソーシングは、インターネットを通じて企業が仕事を発注し、不特定多数の個人が受ける仕組み。

事業名に「ユニバーサル」を加えた。

実験は全国11万人の在宅ワーク会員を持つ（株）キャリア・ママ（本社・東京都、堤香苗代表取締役）が事業開発パートナーとなり展開。陸前高田市、北海道札幌市、神奈川県横浜市、兵庫県宝塚市、沖縄県那覇市の5地域を拠点に、今月1日から12月中旬まで実施している。陸前高田市では、同市の一般社団法人スナフキン・アンサンブル（石井優太代表理事）が支援組織

今回の実証実験は、在宅ワークに関心があるものの、従来のクラウドソーシングの仕組みが分からないため取り組めない人などを対象とする。障害やさまざまな理由で生きづらさを抱えていたり、育児、介護のため働くことをあきらめた人を含めた「すべての人のための在宅ワーク」として

発注する業務は、文章の校正、文字起こし、データ入力など、初心者でも取り組みやすい仕事や、写真撮影、動画視聴モニターなどスマートフォンでも可能な仕事を想定。支援組織は、各ワーカーの特性や希望に応じた形で業務を依頼するなどサポートに当たる。スナフキン・アンサンブルは、性別や年代、障害の有無を問わず、働きづらさを抱える人を支援する陸前高田市ユニバーサル就労支援センター（矢作町）を運営。新型コロナウイルス感染症拡大後はICT（情報通信技術）を活用した在宅就労の創出に力を入れる。石井代表理事（44）は「さまざまな理由で働きづらさを抱えている人に、希望に即した内容の仕事を提供することで、働く機会の幅が広がればいい。地域に根づく団体として寄り添ったサポートをしていきたい」と話した。

実証実験の仕組みイメージは別掲。問い合わせは、市ユニバーサル就労支援センター（TEL22・8465、メールinfo@uwc-rikuzentakata.net）へ。

を担う。

発注する業務は、文章の校正、文字起こし、データ入力など、初心者でも取り組みやすい仕事や、写真撮影、動画視聴モニターなどスマートフォンでも可能な仕事を想定。支援組織は、各ワーカーの特性や希望に応じた形で業務を依頼するなどサポートに当たる。スナフキン・アンサンブルは、性別や年代、障害の有無を問わず、働きづらさを抱える人を支援する陸前高田市ユニバーサル就労支援センター（矢作町）を運営。新型コロナウイルス感染症拡大後はICT（情報通信技術）を活用した在宅就労の創出に力を入れる。石井代表理事（44）は「さまざまな理由で働きづらさを抱えている人に、希望に即した内容の仕事を提供することで、働く機会の幅が広がればいい。地域に根づく団体として寄り添ったサポートをしていきたい」と話した。